

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育 課程 学習 指導	<p>・中等教育学校における教育課程の基準の特例等を活用し、6年間の一貫した教育課程を編成し、多彩で豊かな教育内容の展開を通じて、個性や創造性の伸長を図るよう、カリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>・教科・科目の学習を通して知識・技能を基礎としながら、自ら課題を見い出し、課題を解決するため、他者と協働する学習に取り組み、自然を探究する学習を通して、組織的な授業改善を推進し、科学的・論理的思考力の育成に取り組む。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」に向けた（アクティブ・ラーニングの視点に立った）、組織的な授業改善に取り組む。後期課程における100分授業の効果的な授業展開・内容の研究と実践を行う。</p> <p>ICTの利活用について研究し、授業等で活用する。</p> <p>②6年間一貫教育を活かしたカリキュラムを構築し、継続して系統立てた指導ができるようカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p>	<p>①教科会を定期的に行い、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）を実現するための授業展開を検討し実践する。有効な100分授業の検証を行う。</p> <p>ICTの利活用を研究し、授業等での活用を推進する。</p> <p>②「学びPT」および「次世代改革PT」を柱として、教科会を中心に高大接続改革・新学習指導要領実施に向けての校内研究を推進する。</p>	<p>①教員が授業で「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）を実践する割合が昨年度より増加したか。</p> <p>教科で100分授業の検証及び効果的な授業の取組ができたか。</p> <p>BYODシステムの導入により、学習支援クラウドサービス（Classi等）、ICTの活用が推進できたか。</p> <p>②中等教育学校の特例を活かした6年間の一貫した教育内容を検証し再構築できたか。</p>
2	生徒 指導・ 支援	<p>・学年の枠を超えた活動などを通じて、思いやりの心を持ち、高い規範意識を持ち、自ら進んで未来を切り拓く意欲や行動力あふれる豊かな人間性とリーダーシップを備えた次世代を担うリーダーを育成する教育活動を充実する。</p> <p>・教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーを中心とした組織的な教育相談体制を活用し個に応じた支援を充実させる。</p>	<p>①「あいさつをすする、時間を守る、整理整頓をする」の意識付けを朝会などで行い、基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>課題等について計画的な取組ができるように組織的に支援する。</p> <p>いじめの早期発見に努め、いじめ防止に組織的に取り組む。</p> <p>②教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーを中心とした組織的な教育相談体制を構築し活性化。教育相談センターを柱として、相談室の活用等の取組を推進する。ケース会議等を充実させ、職員会議等に全職員で状況を共有し個に応じた支援体制を充実させる。</p>	<p>①3ヶ月に一度の割合で「あいさつをすする、時間を守る、整理整頓をする」の強化月間を設け全職員で重点的に指導にあたる。課題予定表などを作成し、生徒が計画的に学習へ取り組むことができるように支援する。学年会や職員会議等で定期的に情報を共有する。いじめ防止アンケートや面談等をおして、いじめの早期発見、未然防止を行う。</p> <p>②教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーを中心として生活指導グループと連携・協働して教育相談体制を構築し活性化。生徒が相談できる機会を増やし、ケース会議等や、外部機関等の連携を充実させ、生徒の心に寄り添う支援をする。</p>	<p>①3ヶ月に一度の割合で強化月間を設け、「あいさつをすする、整理整頓をする」に対して指導することができたか。</p> <p>生徒が基本的な生活習慣を身に付けることができたか。</p> <p>課題予定表を作成し、共有できたか。</p> <p>全職員で、学年会や職員会議等で情報の共有ができたか。</p> <p>②教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーと情報交換を密に行い、教育相談体制を構築し活性化できたか。</p> <p>外部機関との連携やケース会議の実施の機会が増えたか。</p> <p>相談室の活用等が昨年度よりできたか。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備え、よりよい社会の構築に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材の育成に取り組む。生徒一人ひとりのキャリアプランニングの充実にむけ支援する。 ・段階的・系統的な進路指導を実施し生徒の進路意識を高め、生徒の高い進路希望の実現に向け組織的な支援をする。 	<p>①次世代を担うリーダーの育成に向けたキャリアプランニングの構築で「総合的な学習の時間」を活用する。探究活動に取り組むプロセスをとおして自己と社会とのつながりを意識させる。</p> <p>②進路ガイダンスや学部学科研究等、前期課程から計画的な進路指導を行い生徒の進路意識を高め、国公立大学をはじめ生徒一人ひとりのより高い進路実現に向けて組織的に取り組む。</p> <p>前期課程生の組織的な補習体制を推進する。</p>	<p>①前期課程の『総合的な学習の時間』を「自己発見チャレンジ」、後期課程の「かながわ次世代教養」につなげるため、テーマ設定の工夫と活動フィールドの充実に向けて外部機関の教育力の活用をする。</p> <p>②進路ガイダンスを計画的に実施し、生徒の進路意識を高める。国公立大学をはじめ生徒一人ひとりの進路実現に向け、授業の充実や進路相談の充実などを推進する。</p> <p>補習体制の確立に向け、基礎読解力テスト等を活用し、効果的で組織的な取組を行う。</p>	<p>①前期課程の取組が、「自己発見チャレンジ」、後期課程の「かながわ次世代教養」のテーマ設定につながり、将来の目標を見据えた課題・解決のための探究活動ができたか。</p> <p>後期課程の探究活動で外部機関を活用し、生徒一人ひとりの探究活動の充実ができたか。</p> <p>②今年度の卒業生の、70%以上の生徒が進路希望を実現したか。</p>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中学校や大学、研究機関、企業、NPO法人等外部機関と連携し協働する取組を推進する。 ・6年間の一貫教育の本校の魅力を広く県民に広報し、開かれた学校づくりを推進する。 	<p>①地域の大学や研究機関だけでなく、PTAと連携した教育活動を充実させる。部活動や委員会などの地域と協働した活動の充実を図る。</p> <p>②特色ある教育内容を広報し、開かれた学校づくりをさらに推進する。</p>	<p>①大学や研究機関、地域やPTAとの連携をし、特別土曜講座などの講師としての招聘を検討し、特別土曜講座の内容を充実させる。</p> <p>地域と協働した美化委員会の活動や部活動の活動の充実を図る。</p> <p>②学校行事や特色ある教育活動をホームページ、学年通信等で発信する。</p>	<p>①学校内の活動に、昨年度よりPTAが関わる機会が増えたか。</p> <p>また地域での活動により、生徒と地域との交流が深まったか。特別土曜講座のアンケートにおいて、肯定的評価が8割以上だったか。</p> <p>②保護者の来校機会・人数が昨年度より増えたか。</p> <p>ホームページ、学年通信等を定期的に発信し効果的に活用できたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育公務員としての高い使命感・倫理観を持ち服務規律を遵守するとともに、各グループ・学年を超えた協働体制を整え全職員が責任・使命感を持ち、入学者決定業務、個人情報保護や適正な会計処理等事故・不祥事防止に取り組む。 	<p>①入学者決定業務において検査・採点等改善し、全職員で事故防止に取り組む。</p> <p>②事故・不祥事防止、いじめ・体罰防止、私費会計処理等をはじめ、職員の資質・能力の向上に向けた職員研修を適切に実施し、全職員の責任・使命感の向上を図る。</p>	<p>①入学者決定業務における昨年度の課題の改善を図る。事故ゼロの継続に向け組織的に取り組む。</p> <p>②適切で効果的な職員研修を実施し、職員の資質・能力の向上を図り、地域・保護者から信頼される学校をめざす。生徒一人ひとりの心に寄り添う指導を徹底する。</p>	<p>①入学者決定業務において、組織の一員として協働意識を向上させ、事故ゼロを達成できたか。</p> <p>②職員研修をとおして、全職員の意識の醸成と資質・能力の向上を図ることができたか。</p> <p>生徒一人ひとりの心に寄り添う指導ができたか。</p>